

## 会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称  
平成28年度第2回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 平成28年8月19日(金)10時00分から11時32分 まで
- 3 開催場所 美里町健康福祉センターさるびあ館 2階研修室
- 4 会議に出席した者
  - (1) 委員  
小野俊次委員、角田フミコ委員、馬場章禎委員、千葉久美委員  
佐々木義夫委員、浅野恵美委員
  - (2) 事務局  
高橋ひろみ、横山太一、小林公美、相原浩子
  - (3) その他
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別  
議題  
地区社協の情報交換会の様子について  
地域にある町民対象の相談窓口や事業を振り返る  
会議の公開・非公開の別  
**公開**
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の人数  
0人
- 8 会議資料  
別紙のとおり

## 9 会議の概要

### (1) 議題の審議結果又は今後の対応

- ・高齢者のことだけでなく、障害者のことも含め町の課題について話し合うような場がないとうまくいかない。縦割りでの事業や連携ではなく、課題を皆で共有する場が必要である。
- ・家族の形態が様々あり、また世帯の中には課題を持つ人がおり、高齢者だけ、障害者だけ等の相談のやり方ではうまくいかない。
- ・制度にあてはまらない相談が沢山ある。制度の狭間の相談をどうしていくのが課題である。
- ・区長・民生委員に様々な相談がある。地域に区長・民生委員を支える人や会議をどうするかを考えていかなければならない。

(2) 詳細な意見

相原技術主幹	<p>本日は課長が所用により遅れての出席となりますので、私の方で進めさせていただきます。</p> <p>まず始めに、先日8月5日に地区社協で情報交換会がありまして、そちらにこの会議の委員さんが何名か出席させていただいたので、その時の様子をお話できればと思います。</p> <p>前回の会議で話しましたが、何故その情報交換会に出席することになったかを振り返りたいと思います。この会議は高齢者の生活支援のサービス体制の整備に向けて、皆さんで情報共有をはかって、資源開発をしていきたいと思います。一番やっていかなければならないことは、地域づくりではないかと前回確認しました。どんな地域にしたらよいかを考えるために、昨年会議で出た意見を付箋に書いて整理をし、発表をしました。皆さんの手元に、前回整理した物をカラーコピーした資料があるかと思います。どちらのグループからも、地域で困っていることや地域で暮らす人がどんなことを考えているのかが分からないと、どんなことをしていったら良いかが分からないのではないかという意見が出ました。それならば、意見を聞けるところに行ってみようとなり、社協さんで情報交換会をしているので出席をしようとなったところでした。</p> <p>出席したのが佐々木委員さんと包括の職員で相原、高橋、小林です。もちろん社協主催なので、浅野さんも出席でした。</p> <p>浅野さんから情報交換会の趣旨やどんなふうにしてきたかを説明をお願いします。</p>
浅野委員	<p>情報交換会は今年度で4年目になります。美里町社協には地域福祉活動計画というものがあり、その計画をつくる際、事務所の中で職員が考えるのではなく住民の皆さんに教えていただいて、今地域はどうなっているのかどんなことを望んでいるのか、課題があるならどうすれば課題解決できるのかということを探っていこうと始めました。美里町内に16地区社協あり、小牛田地区は小学校区に一つ</p> <p>あります。南郷地区は小さな単位で、二つか三つの行政区が一つの地区社協を構成しており9地区社協があります。その地区社協が中心となり情報交換会をやってきましたが、最初は地域ってどうなっているのか教えて下さいというところから始まりました。例えばど</p>

んな団体があるのか、どんな活動があるのか等を聞きました。老人クラブや婦人会、お茶っこのみ会や教室等があることを沢山教えていただきました。年々進んでいくと、困ったことの話が聞かれるようになりました。薄暗い中におばあさんが一人でいたり、うろうろしているというような話等があり、それをどんな風にできるのか話し合いをしました。もちろん、専門機関につないで相談をしていただいたり、解決に向けてサービスにつなぐということもありますが、24時間・365日をそれでサポートできるわけではないので、住民として私達は何ができるかというところで、見守りや挨拶、お茶っこのみ会での状況把握や共有が大事だと話し合ってきました。

そもそも地域福祉というのが社会福祉法の第4条に住民主体という言葉が一番先に出てきます。地域福祉を進めるのは住民ですとでてきます。役場が考えるからする、社協が考えてやらせるとかということではなくて、住民の皆さんが主体的に考えて話し合いをして解決に向けて探っていくというプロセスそのものが地域福祉そのものだと思っています。すぐ解決するものではないですが、そのプロセスを大事にして4年目となっています。

社協の目的と社会福祉協議会の活動原則が書いてありますが、住民ニーズ基本の原則、住民活動主体の原則、民間性の原則、公私協同の原則というところで医療や教育や商工会等いろんな機関とつながっていくことが大事です。地域福祉の専門性というところで、社協の力を発揮しようと進んでいます。後ろのページを見ていただくと、今年度の目的と内容ですが、課題が見えてきました。高齢者の相談でかかると一緒に60代の未婚の子が生活しており、親であるその高齢者の年金で生活しているけれども、親がなくなったらどうするのか、子ども間もなく65歳になる等高齢者に限らず世帯には様々な問題があり、兄弟や親等親族とのつながりが切れている、孤立しているという問題が大きく出てきました。また地域では色々な活動をしているけれど、それを若い人たちにどうやってつないでいくかという課題があり、8月5日に行った北浦地区では次の世代にこの思いをどう伝えていくかというところで話がありました。

社協としては、話し合う場、気づく場をどう作るかというところでこの情報交換会を大事にしています。話し合ったことを解決に向けて

実践をしたり、実践してダメだったらまた考えるということをやっていたらと思っています。一例を出して言えば、不動堂地区社協に関しては駅前地区とはいえ、一人暮らしや自転車や車に乗れない

という方もいて買い物が大変、重たい物を持って運ぶのが大変という話がありました。そこで不動堂地区社協ではアンケート調査を75歳以上の方に行っています。アンケートの内容を考え、配ただけでは書けないだろうと、個別に回り、もう間もなく集約するような段取りになっています。不動堂地区社協の中で買い物支援というスタイルで新たな事業が生まれる予定です。しかし、買い物支援のスタイルも様々あり県外の事例も参考にしていますが、不動堂らしく無理なくできる買い物支援をまずやってみようとなり、実践したことを検証しながらやりたいと思っています。住民発の出来るものが、ぽつぽつと出来ています。北浦地区では安心カプセルと言って、もし万が一、一人暮らしの方が倒れていた時に救急車を呼ぶことは隣人ができたとしても、息子さんがどこにいるかケアマネジャーさんが誰かが分からないので、基本的な情報をカプセルの中に入れておいて冷蔵庫の中にしまっておくということに取り組んでいます。どうして冷蔵庫かというと、震災があったとしても冷蔵庫は丈夫なので、各機関が冷蔵庫にこれがあると分かれば必要な情報を取り出して使えます。中組や関根、南郷地区は和多田沼が今年度取組みました。中埜は介護予防の体操教室を自ら始めました。話し合いの中で課題になっているものを自分達のアイディアで解決していこうという動きを、社協は後ろからできるように支援しています。

今後情報交換会の日程も決まってくるので、皆さんに出席していただければと思います。地域の方々からは教わるのが一杯です。公的なサービスだけではなくて、身近なところで支えられるのではないかと思います。私達は福祉で町づくりをしている団体なので、そういう意味で活用していただければと思います。

相原技術主幹

ありがとうございました。  
実際出席してみて、佐々木委員さんどうでしたか。

佐々木委員

まず社協の活動としてやっているとは聞いていたが、いい組織であることは間違いないかと思います。あの場を活用しながら、出来ることを提供しながら一緒にやっているとよいと思いました。この仕組みがいいと感じました。

話の中で、地区が何地区かまとまって共通の課題に対応していくやり方を真似しながらやるのもいいことなのではと感じました。

意外と私達の知らない活動が沢山あるんだなと思いました。こ

	<p>れから自分達がNPOで活動していく時の参考になりました。どういう形で協力していけばよいか、こういう機会に参加することでアイデアを貰え、いい方向で考えることができるようになったというのが感想です。</p>
小野委員	<p>情報交換会は、誰かが発言したことに対して真似してみようとか、よその県でやっていることを勉強したりとか、参考になることが一杯ある。交換会もしている。</p>
浅野委員	<p>皆さん自分の地域のことは知っているけれど、他の地域のことは知らないのです。年に1回、合同報告会をやってそれぞれいいところを真似てやっています。去年、青生地区社協が役場から渡された敬老式の案内に、青生地区社協独自の手作りの案内を入れました。それを報告会で発表したら、今年は小牛田地区社協でも行いました。青生地区社協区では、顔を見て「待ってるから」と言いながら手渡しをして下さい、会場に来るのが大変であれば「迎えにいくよ」とか言って下さいと敬老式の打合せ会の中で話されています。敬老式という町の行事を使って、支え合いだったり助け合いが生まれていると思います。</p>
佐々木委員	<p>色々な組織がある中で、共通して学びたいと思うとまとまってくる。顔みしりになって話合いをする中で、改善していくことができる。お互いを知りあうということが大事だと思います。</p>
浅野委員	<p>社協で今年度末か来年度の始めに、懇親会を開こうかと思っています。事業所さんに来ていただいて、話ができる機会になればと思っています。私達がつながらないとならないのではと思います。</p>
相原技術主幹	<p>次に進みます。この会議の中で色々なことを考えていきましょうと話してはいるものの、新しいことを考えるよりも、今やっていることを整理してどんなつながりがあるのかを見直したり、私達自身も分かっているようで分かってない物が沢山あるので、皆さんで出し合ってみようと思います。高齢者も子供も障害者等も、相談会や相談員や支援員等、また会議等で情報がどんな風に共有されているのかが分からないので、付箋に会議名等を書いてもらい、貼ってある模造紙に出し合っていきたいと思います。</p>
	<p>～各自の作業～</p>

相原技術主幹	皆さん書き出されたもので、分からないものはありませんか。ひありんくはわかりますか。
浅野委員	今年法律が出来て、生活困窮者自立支援法という法律の基に、相談事業や就労支援等を行っている事業所名がひありんくです。ひありんくはスーパーや小売店にもポスターがあり、美里町からの相談が一番多くなっています。
佐々木委員	この模造紙に貼ってあるものを、一覽で簡単な説明がついて見れるとよい。
小野委員	聞いたことないものも一杯ある。
浅野委員	整理をして概要をつけて紙上でまとめれば、美里町の窓口というシートになっていけばいいですね。何かあった時、どこに相談すればよいか分かる。
佐々木委員	似たような会議があった時、一緒に取り組むことができないだろうか。つながれると良い。
相原技術主幹	区長さん方は沢山の充て職があったりします。同じことをあっちの会議でもこっちの会議でも話していたりすることはないでしょうか。どんな風に会議がつながっているのか、行政だと課が違うとそのようななったりしてしまうことがあります。
千葉委員	話がずれるかもしれませんが、自立支援協議会に出席していますが、障害者への支援がとても難しい。大変です。今は高齢者の今後のことを話し合っているけれども、障害者については平成30年度までに建物を建てなくてはならないらしいが、美里町は建物を建てないで事業所を使いながらやっていくという体制を考えている。障害者のことは意外と分からなく、支える事業所も少ない。JAは高齢者も障害者も両方の事業をやっているが、障害者の支援については本当に分からないことが多い。高齢者の介護で訪問すると、障害者が同居していることが多く、高齢者と障害者の制度は違うので複雑だなと思っています。
浅野委員	制度に乗るのはやりやすい。手帳を持っていない、申請しない又したくない、仕方が分からない等という方が地域には一杯います。制度の対象に合えばとてもよいが、それ以外の方が一杯います。制度の中だけで考えるとやりやすいが、そこに行きつかない人が結構いると思います。
角田委員	障害者のデイサービスがあると思いますが、障害者をお子さん

	<p>に持つお母さんが腰を痛めたのでデイサービスに預けたそうです。それを非難されたと話す。「私はそんなに悪いことをしたのか」と言っていました。一番つらいのはお母さんで、私はこう言いました。お母さんがお子さんを見れなくなったら家族皆が困って生活できなくなる。サービスを使って時々休むよう言いました。</p> <p>高齢者だとすぐさるびあ館につないでいる。高齢者に対しては暖かく対応してくれるが、障害者に対しては理解できないところがあるのか、対応も難しいし家族も隠したがる。そうすると、孤立してしまい、何かがあるといいなと思う。付箋で書き出されたものも、障害者のところが少ない。</p> <p>名簿はないが、どこにどんな方が暮らしているかは把握しているが、長く活動していないと把握するのも難しい。</p>
浅野委員	<p>地域の情報としてあるものを活用するしかない。</p>
相原技術主幹	<p>役場と民生委員だけのつながりだと、名簿がないとどこに誰がいるか分からないとなる。こういう方が住んでいてこんなことに困っているということを、必要な機関や事業所や地域の方で情報交換ができ、その人を支援する為に必要なこととして皆で分かっているようなつながりができるとよい。必要なことだと考えている。</p>
佐々木委員	<p>横串を誰が通すのか、どこが通すのか。誰かが横串を通していかないと解決しない。このまま縦割りでやってもうまく回らない。</p>
相原技術主幹	<p>そこを考えていかなければならない。あるものを活用しながら、皆でつながっていけるとよい。仕組みがないと新しい制度ができて活用できないのではないか。これからの課題としてやっていかなければならないところだと思います。</p>
浅野委員	<p>健康福祉課と行政で、横串を通すところをやってもらわないとならない。高齢者の家に障害者がいる等、課題は複合的で絡みあっている。横串を通す場を行政が作り、全体の課題を皆で共有する場もあれば、専門的なことで話しあう場もあればという整理ができればと思います。今は介護保険の制度の中での話ですが、介護だけでは済まないことが分かる。</p>
相原技術主幹	<p>現在、社協さんと包括で定期的に会議を行っていますが、その中でもその話題になった。高齢者のことだけではなく、障害者のことも含め、町の課題について等を話し合うような場がないとうまくいかなのではないかという話になった。今日も同じ意見が出</p>

	ました。取り組んでいきたいと考えます。
--	---------------------

青木健康福祉課長	障害者の情報の話が出ましたが、災害時には情報提供できるようになりました。
相原技術主幹	<p>しかし、災害時は名簿を見て行動するのは難しいので、日頃の付き合いや支援をしているなかで本人の状況を掴んでいることが大事かと思います。</p> <p>地域で色々やってみただけで解決しないこと等を横断的に考えられるような仕組みを作っていけたらと思います。</p> <p>次回に、このあたりのことを検討できたらいいと考えています。</p>
浅野委員	今日模造紙に貼った物と、以前社協と包括でも同じようなことをした物があるので整理できるとよい。
相原技術主幹	人が変わると知っていることも変わるので、整理できるとよい。
浅野委員	今は制度に合わせて相談窓口があるけれど、あてはまらない事は一杯ある。狭間の相談をどうするのが課題です。将来的になんとかできるとよい。
千葉委員	これから家族構成も変わり、孤立している人達が一杯います。何年後かには、今の家族の体制ではなくなっていくということを頭に入れながら町が目指すところを考えなければならない。
浅野委員	今美里町の家族の構成人数は平均2.8人です。家族でがんばれとは言いつけられない状況です。隣の家を構わないでいられない状況です。
角田委員	お茶飲み会に誘っても、人の中に出ていきたくない人が結構多い。
浅野委員	沿岸部での被災者支援では訪問拒否等はよくある。茶飲み会や敬老式に沢山の人を集めようというやり方ではない方法を考えていかなければならない。民生委員さんとつながってなくても、事業所さん等誰かとつながっていればいい。
角田委員	公的なサービスが入っていると安心する。
小野委員	一般の人がどこまで住民のケアができるのか。認知症の家族のことを相談してくる人がいるけれども、自分ではどうしようもない。
相原技術主幹	今は何でも区長さん、民生委員さんに相談に行く。それを支

	えてくれたり、社協や行政との橋渡しをしてくれる人を今後どのように作っていくかを考えていかなければならないのではないかな。
--	--

浅野委員	区長さん、民生委員さんを孤立させない体制が必要でないかと福祉課で話したところです。地域の中でサポートできる体制があってもいいのではないかという提案です。社協で言えば福祉活動推進員さんが地域福祉を推進する人になれば、区長さんと民生委員さんの間でやっていけるのではないかと思います。
相原技術主幹	先ほど話しましたが、民生委員さんと行政、推進員さんと民生委員さんという関係しか今はないので、守秘義務のこと等どこまで話すか等問題になりやすい。支える人や仕組みを考えていくことで、守秘義務も一緒に考えていけたらいいのではないかと思います。
浅野委員	地域ネットワーク会議と付箋に書いて貼りましたが、全地域ではないのですが、地域の方から支援会議をするから来てほしいと声をかけられる時があります。猫やごみ、伐採のこと等色々ありますが、その中で必要なことを健康福祉課に相談しようとか建設課に相談しようとかやっています。 今より良くなる為に誰とどこをつなぐかや今持っている情報を検討する場を検討できればと思います。
馬場委員	商工会としては、買い物弱者への支援を全国的にしていたりするので、情報提供できればと思います。
相原技術主幹	次回は、今日の内容を踏まえて仕組みの検討をしたいと思います。これで終了にしたいと思います。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

年 月 日

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_